

太陽の鐘

ニュース 第二号

工事進捗のご報告



太陽の鐘設置工事は順調に進捗しております。モニュメントの基礎工事及び鐘突き棒の柱の設置工事が昨年12月末に完了しました。

富山県高岡市での修復が終わった太陽の鐘は、1月11日に工場を出発。渋谷駅に設置されている《明日の神話》(太陽の鐘ニュース第一号掲載)の運搬時に使用された「TARO」シートに包まれ、無事、前橋に到着し、翌12日に広瀬川河畔に吊り下げられました。19日には鐘突き棒を設置し、20日に動作試験を行いました。

2月は樹木の植栽及び盛土工事を、3月は舗装工事を予定しております。周辺にお住まいの皆さまには3月末の完成まで引き続きご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。太陽の鐘オープニング式典の詳細は次号の太陽の鐘ニュース等でお知らせいたします。



【工事スケジュール】 ※いずれも予定となります。



COLUMN 02

芸術は爆発だ

現在、岡本太郎を知る国民の多くが《太陽の塔》とならび思い出すのが、「芸術は爆発だ」という言葉ではないでしょうか。

1970年に開催された大阪万博によって《太陽の塔》と岡本太郎の名は全国的に知られることとなり、その後は雑誌での人生相談やテレビのコマーシャルからバラエティ番組への出演までこなし、日本でもっとも有名な芸術家となりました。「芸術は爆発だ」というフレーズも、1980年代のテレビコマーシャルによって広く知られることとなった言葉です。このほかにも出演した洋酒のテレビコマーシャルでは「グラスの底に顔があってもいいじゃないか」という流行語が生まれ、バラエティ番組では岡本が両手をひろげて言う「なんだこれは!」というフレーズも国民に強く印象付けられました。

このような70年以降のマスメディアへの出演によって偏ったイメージが付いたことも事実ですが、戦後早い時期から「芸術は大眾のもの」と訴え、芸術を通してそれまでの固定化した価値観を変革しようと鼓舞し続けて来た岡本の言葉は、秘書で養女であった岡本敏子の努力もあり、『今日の芸術』(1954年初版)や『忘れられた日本(沖縄文化論)』(1961年初版)などの再販をはじめ、多数の書籍と

吉田 成志 (アーツ前橋学芸員)

なって生きています。

これらの言葉が多くの読者を生んでいる証拠に、近年でもミュージシャンや俳優などさまざまな業種の人々が岡本の言葉に触れ、ラジオや雑誌などで推薦書籍として紹介されており、テレビコマーシャルでは若者を鼓舞するシーンに岡本の言葉が起用されるなど、人々の背中を押すような痛烈なメッセージは時代や世代を越えて影響力をおよぼしていることがうかがえます。



岡本太郎《樹人》1971年

岡本太郎と語る会のご案内

参加費無料

参加申込不要

岡本太郎を知るための座談会に参加しませんか？

詳しくは、前橋まちなかエージェンシーのHP (www.machinaka.agency) をご覧ください。